

## 令和5年度 名古屋大学総長顕彰授与式が行われました

令和6年3月25日（月）

学修への取り組み部門：名古屋大学卒業式にて

正課外活動への取り組み部門：豊田講堂にて

学修への取り組み部門 受賞者	
所属	氏名
文学部 人文学科 4年	中村 日向子
教育学部 人間発達科学科 4年	山田 怜生
法学部 法律・政治学科 4年	渡会 りお
経済学部 経営学科 4年	一柳 典伽
情報学部 コンピューター科学科 4年	杉森 唯瑠未
理学部 化学科 4年	三河 咲太
医学部 医学科 6年	上岡 優介
工学部 機械・航空宇宙工学科 4年	鮎澤 颯
農学部 応用生命科学科 4年	加藤 優花

正課外活動への取り組み 部門 受賞者		
所属	氏名 / 団体名	分野
医学研究科 博士課程 2年	木野内 南	社会への貢献活動
経済学部 経済学科 4年	小島 未莉	国際交流 本学への貢献活動
法学研究科 博士後期課程 3年	UBAYDULLAEV Davronbek Abduvakhob ugli	国際交流 本学への貢献活動
—	名古屋大学陸上競技部 長距離パート	正課外活動 (部活動等・スポーツ)
—	名古屋大学国際交流会館 レジデント・アシスタント	国際交流 本学への貢献活動
—	Nagoya University Model United Nations	正課外活動 (その他) 国際交流

(2024年3月時点)

【学修への取り組み部門授与式】



中村 日向子さん（文学部）



山田 怜生さん（教育学部）



渡会 りおさん（法学部）



一柳 典伽さん（経済学部）



杉森 唯瑠未さん（情報学部）



三河 咲太さん（理学部）



上岡 優介さん（医学部）



船澤 颯さん（工学部）



加藤 優花さん（農学部）



【正課外活動への取り組み部門授与式】



前方左から：佐久間 淳一副総長、杉山 直総長

後方左から：加藤 太一さん（名古屋大学陸上競技部長距離パート）、

ウバイドウラエフ ダブロンベックさん、西本 宇志さん（名古屋大学国際交流会館  
レジデント・アシスタント）、木野内 南さん

ゴ ジア リンさん（Nagoya University Model United Nations）

小島 未莉さん、明松 達也さん（Nagoya University Model United Nations）

中村 日向子 文学部 人文学科 4年

## 学びに満ちた4年間

入学してから4年、これまで多くの学びの機会がありました。様々な文学作品やフランス語について学ぶとともに、広く西洋の歴史や文化に関する授業にも出席しました。授業以外では「日本の学生が選ぶゴンクール賞」という文学賞の選考活動に3年間携わり、他の学生たちとともに現代のフランス文学を読むこともできました。そして卒業論文では、小説のナレーション部分における「視点」と老いの描写の関連について論じました。

また、言語の習得にも力を入れてきました。毎日の授業やその予習に加えて、講演会の機会があればフランス語で質問してみたり、自宅ではラジオや動画を視聴したりするなどして、フランス語を使う機会を持つことを心がけました。その結果、フランス語の資格試験に合格することもできました。

社会人となっても、語学の経験を活かしつつ、これまで培ってきた学ぶ姿勢を忘れずに様々なことに挑戦していきたいと思います。

**講評**：高い累積 GPA に加え、コロナ禍で留学が叶わなかったにもかかわらず、高度なフランス語能力を身に着けたことは、弛まず積み重ねてきた努力の賜物と言える。「日本の学生が選ぶゴンクール賞」での活躍や、日本人が苦手としがちな外国語で議論する能力が高いことも多いに評価に値する。社会人になってからも、学生時代の経験や身につけた能力を活かして、更なる飛躍を期待したい。

山田 怜生 教育学部 人間発達科学科 4年

## 主体的に学び続けた4年間

私は、この4年間常に主体的に学習に取り組んできました。特に3年時以降は、専門分野に焦点を当て熱心に学業に打ち込んできました。

3年時から、統計学の勉強会を自主的に開催し、同期の友人や大学院の先輩方とともに、心理学の研究に不可欠な統計学や線形代数について、心理計量学の先生にも協力して頂いた上で勉強を行っています。初めは独学で学習を始めたのですが、文系出身の私には難しく、友人らと共にこのような勉強会を開催できたのはとても良かったと感じています。

4年時には卒業論文の一部を学会で発表することもできました。仮説通りの結果は得られなかったものの、学部生の中に学会発表に参加できたことは、今後研究を続ける上でとても良い経験となりました。

今後は大学院に進学し、卒業論文の研究で得られた結果を踏まえ、さらに研究を進めていく予定です。また、学会や論文投稿等、積極的に自身の研究成果を発信していきたいと考えています。

**講評**：学業はもちろん、コロナ禍により沈滞してしまった学生自治会の活動の再活性化にも率先して取り組み、自主ゼミの運営など、周囲を巻き込みながら主体的に行動する姿勢は、学生間の交流が希薄となりつつある現在、大いに評価に値する。大学院進学後も、専門分野を深めつつ、それにとどまらない多くのことを吸収するとともに、自ら積極的に発信する姿勢を持ち続けて欲しい。

## 「人と社会」に軸足を置いた4年間の学修

私は、人どうしのつながりという観点から法や制度の役割について考えるという一貫した学修テーマをもって4年間の学修に取り組みました。必修科目がないという法学部の特徴をフルに活用し、履修選択から選んだ講義をやり抜くところまで責任をもって行ってきました。シラバスの熟読を通じて、自らの関心に合う講義を幅広く履修し、選択した講義では、予習復習や関連文献の通読を通じて積極的に学びを深めていきました。特に、西洋政治思想史では人間の生き方についての規範的な考え方を学んだ一方で、法社会学のゼミでは、子どもなど現実世界における脆弱な立場に置かれた人々に目を向け、法や社会との関わりについて学びを深めることができました。このような学修を通じて私は、人同士のつながりの重要性を実感しました。

今後は、鉄道会社に就職します。物理的な距離を超えて、より速くより多くの人同士を繋げるインフラづくりに貢献できるよう努めて参ります。

**講評**：学部4年間を通して、常に学年1位という評価を得ることは容易なことではなく、結果はもちろん、そこに至る学びの過程も高く評価できる。また、夫婦別姓のような社会的に難しい課題に対しても、文献や当事者の意見に耳を傾けることで思考をブラッシュアップできたことは大きな財産と言える。社会人になってからも、持てる力を十二分に発揮し、大いに活躍してほしい。

## 興味に貪欲に

私は、大学4年間やりたいことすべてに全力で挑戦してきました。

1年次の秋からは、公認会計士試験の勉強をしてきました。ただ、私は幅広い知識や教養を身につけて多様な経験を得ることを志望して本学に入学したため、公認会計士試験の勉強のみならず、大学の講義にも精力的に励んできました。その結果、会計・監査の知識にとどまらず経営学まで広く体系的な理解をすることができ、3年次の秋での公認会計士試験合格を果たしました。公認会計士試験合格後には、計3カ国の短期海外研修に参加しました。各国の文化や生活に触れて視野が広がっただけでなく、スタートアップ企業からグローバル企業まで様々な企業への訪問を通じて、起業、MBA、海外赴任など、将来のキャリア形成を考えるきっかけになりました。

今後は監査法人で実務経験を積む一方で、学部・修士5年一貫教育プログラムを利用して大学院に進学し、より一層学びを深めていく所存です。

**講評**：学修において優秀な成績を修めるとともに、合格率10%台の試験を突破して在学中に公認会計士の資格を取得したことは高い評価に値する。その資格を活かした監査法人でのアルバイトや三度にわたる短期留学プログラムへの参加、経済学部同窓会・キタン会での活躍など、在学中の活動は多岐にわたる。社会人になっても、抜群の行動力を活かして、更なる飛躍を遂げてほしい。

杉森 唯瑠未 情報学部 コンピューター科学科 4年

## 挑戦と努力の4年間

入学以来の挑戦と弛まぬ努力が、今回の受賞につながったように感じています。大学の講義に加え、学習内容の実践や発展的知識の獲得を目的とした自学にも力を入れました。自作ソフトウェアの開発や専門書による学習、資格取得などへの挑戦は、後の学びの糧となります。例えば、3年時に合格した応用情報技術者試験では、講義で学習していない範囲も多く含まれていましたが、講義の予習と位置付けて勉強に励みました。現在取り組んでいるのは、ASPと呼ばれるAI用プログラミングシステムの研究です。ASP研究で世界的に著名な教授に卒業論文の成果が認められ、国際共同開発研究を主開発者として進めています。

大学院では、国際共同研究を加速させ、ASPの更なる発展に貢献していく所存です。大学院卒業後は、プログラミングスキルと国際共同研究の経験を活かし、世界で活躍できるプログラマーになりたいと考えています。

**講評：**各学科各学年から選出される成績優秀者2名に2年連続で選出されたこと、専門資格を複数取得していることなど、いずれも弛まぬ努力と挑戦が実を結んだ結果であり、高く評価できる。卒業研究が認められ、早くも国際共同研究がスタートしていることも大変素晴らしい成果と言える。今後も、自身の夢の実現に向けて挑戦を続け、世界の舞台で活躍する人材に成長してほしい。

三河 咲太 理学部 化学科 4年

## 化学反応で世界を変える研究者となるために

私は、化学反応の力で世界を変える研究者を目指して名古屋大学に入学し、4年間の大学生活では、自身の目標達成に向けて以下の2点を意識しました。

まず、柔軟な発想で研究に臨む素地を養うため、専攻や興味を超えた様々な講義を積極的に履修しました。さらに、講義の後には、トピックについて英語での議論を重ねる等、研究者に必須なスキルの向上に努めました。

2点目に多くの講演会に参加し、質問を通じて議論を深めました。様々な分野の最新研究を系統立てて理解することで、現在では多様な研究提案を行うことができる知識を養えたと考えています。このように、大学の自由な学風を活かし、好奇心に基づいた自由な発想力を身につけることができました。

現在は、新奇炭素材料の合成法開発の研究に携わっており、先述した夢への第一歩を踏み出しました。今後は大学院で留学、学会発表といった経験を積み、研究者としてより一層の高みを目指します。

**講評：**小学生時代から科学に魅せられ、その初心を忘れず、自身が抱いた疑問や社会の課題を化学の力で解決せんとする姿勢は称賛に値する。学修全般において極めて高い成績を修めていること、難易度の高い研究テーマに挑戦し、既に共同研究をスタートさせていることも、学びへの探求心や意欲が結実したものに他ならない。今後も一層学びを深め、日本のみならず世界で活躍する研究者となってほしい。

## 上岡 優介 医学部 医学科 6年

### 世界に目を向け、挑戦と学びの繰り返し

大学生活を通し、医学知識を学ぶだけでなく、自分自身を成長させるような経験を積むことを心掛けてきました。入学時からの目標は、海外の病院での実習留学でした。1年生から自主参加の医学英語の授業に参加し、留学を目指す友人達と勉強会を開き、知識や診療技術の研鑽に努めました。実際にアメリカのジョンズホプキンス大学病院において、現地の医学生と同じレベルで実習ができたことで、価値観が広がり、度胸や自信になりました。

また、研究室配属の際には、同級生と切磋琢磨し、問題を自ら立て解決していく思考力を身につけることができました。興味のある循環器分野については、心電図検定1級に挑戦し、野球部で主将を務めるなど、多種多様な目標に向けて積極的に挑戦してきました。

卒業後は、患者の診療と医学研究を両立していける医師を目指します。答えのない医療現場に直面しても、名古屋大学で培った経験を活かし、学ぶ姿勢を持ち続け、精進してまいります。

**講評**：入学時から目標に向かって着実に幅広い経験を積んできた自己研鑽への意欲の高さは群を抜いている。また、基礎医学セミナーにおいて、本人だけでなく所属を同じくする学生全員が最優秀賞に選出されたことは、本人の強いリーダーシップが、互いの切磋琢磨につながったことを示している。今後は、一層活動の場を広げ、循環器系の医師・研究者として大いに活躍してほしい。

## 鮎澤 颯 工学部 機械・航空宇宙工学科 4年

### 工学分野発展に貢献できる研究者を目指して

私は学部4年間を通して工学分野の様々な活動に挑戦し、成果を残してきました。もともと航空宇宙産業を志し本学に入学したのですが、授業を通して幅広い工学の研究に興味を持ち、どんな学問でも学び深めることを決めました。グループでの自律型滑空ドローンの設計製作においては、これまでにない独自の機体を作製し、大会では優秀賞をいただきました。また、他大学・異分野の学生との、衛星利用によるリモートセンシングに関する協同研究を通して、幅広い知識・考え方を吸収し、研究成果を発表しました。そして、卒業研究では、高支持力密度を有する3自由度磁気軸受の開発に向けての論文調査やモデル作成・解析を実施し、その成果を国内学会にて発表し、学術雑誌に掲載しました。

卒業後は大学院に進学し、今まで培ってきた知識を元に研究を続けていくつもりです。今後は、国際的にも通用し、工学分野の発展に貢献できる研究者となるため、精進していきます。

**講評**：学修において優秀な成績を修めただけでなく、野球部員としても良好な成績を残しており、限りある時間を有効に使った文武両道の活躍は高く評価できる。現在取り組んでいる研究では、学会発表や学術雑誌への投稿に加えて、特許も出願するなど、精力的な活動を進めており、大学院に進んでも、持ち前の集中力を活かして、夢の実現に邁進してほしい。

加藤 優花 農学部 応用生命科学科 4年

## 自分の可能性を模索した4年間

私は4年間の大学生活で、自分の可能性を広げ、将来像を明確にするために学業に取り組んできました。

私は、高校時代に名古屋大学で生物学の実験を行ったことがきっかけで現在の研究分野に興味を持ち、名古屋大学への入学を目指しました。しかし、入学当初は具体的にどのようなことを究めていきたいのかが明確に決まっているわけではありませんでした。そこで、自分の可能性と将来の選択肢を広げるために、1年次から現在の専門分野だけでなく、様々な分野を広く積極的に学び、知識を身につけていきました。その中で、自分の研究を人に還元させたいという気持ちと、高校時代から変わらなかった生物学・薬学系への興味から、卒業論文では細胞寿命の延長の仕組みを明らかにする研究を行いました。

卒業後も、この研究テーマについて更に理解を深めていきたいと思っています。

**講評：**優秀な学業成績は、周りの学生と共に成長することを志しつつ、自らの信念を強く持ち、地道に弛まぬ努力を重ねてきたことの成果であり、その模範的な勉学姿勢は周囲の学生にも影響を与えている。大学院での研鑽の過程でも、妥協せず学修や研究に取り組む姿勢を貫き、優秀な研究者に成長して、人類の健康の維持や促進に貢献する薬剤の開発で活躍してほしい。

## 正課外活動への取り組み 部門 受賞者 受賞者のことば・講評

木野内 南 医学系研究科 博士課程 4年

## インターネットで心理教育をより身近に

私は、公認心理師と社会福祉士で、双極性の当事者でもあります。双極症は、気分が異常に昂る状態と、気分が異常に落ち込む状態とを繰り返す病気です。しかし、その経過には症状のない時期もあり、その維持は治療上重要です。当事者が治療に主体的に取り組むことができるように、医療従事者などが知識を伝え、一緒に考えていくことを心理教育と呼びます。

心理教育の重要性は、日本うつ病学会などでも指摘されていますが、心理教育を提供する環境には改善の余地があると考えています。診察での心理教育には時間的制約があり、デイケアなどでの心理教育では、疾患別に特化した心理教育の提供が困難です。その打開策として、私は心理教育をインターネット上で行う活動を「NPO法人ネット心理教育ピアサポート」で実践しています。

当事者で専門職として、これからも研究や実践を行っていきます。精神疾患の当事者やご家族が、病気と共に生きていく道を探っていきたいです。

**講評：**双極症などの精神疾患の治療においては、当事者が医学的に正しい知識を身に着け、主体的に治療に当たることが有効とされているが、それを可能にする心理教育を普及するため、自らNPO法人を立ち上げ、自治体等とも連携して集団心理教育を実践していることは高く評価できる。今後、心理教育の重要性の啓発に向け、一層活動の輪を広げていくことを期待したい。

小島 未莉 経済学部 経済学科 4年

## グローバルな名古屋大学を目指して

私は、1年時の基礎セミナーがきっかけで留学生支援の「名古屋大学ヘルプデスク」に所属して以来、国際交流の「コーヒアワー」「プレゼンテーションアワー」留学促進の「留学のとびら」といった学生グループの活動に携わってきました。そして、新型コロナウイルスにより延期にもなりましたが、交換留学にも行きました。私は幸運なことに1年時から留学や留学生と関わり、世界と考え方が広がる経験をしましたが、その一方で、情報にありつけない留学生や、留学や国際交流に難しさを感じる日本語基準の学生から相談を何度も受けました。このズレを原動力に、横断的な活動からより気軽に参加できる国際交流イベントの充実、情報発信、留学や国際的な就職活動の体験談を先生方や学生の協力のもと実施してきました。これらの横断的な活動が継続拡張し、将来名古屋大学のグローバル・マルチキャンパス構想にも繋がる、当たり前のように留学生と日本語基準の学生に隔たりのない大学環境が実現することを願っています。

卒業後の就職先には「元留学生」だった同僚も多く、海外のパートナーや市場に関わる機会もある予定です。学生生活での経験を活かして、世界中の人と対等に仕事ができるように努力を続けていきたいです。そして、これまでの道のりで支援してくださった先生方、同期や後輩の皆さんには感謝を申し上げます。

**講評：**国際交流を目的とする複数の学生団体で活動するとともに、自身も短期、長期の留学を経験することで得た明確な問題意識に基づき、留学生支援の充実や名大生の留学促進に向けた具体的な提案を、主体的な行動により実現してきたことは大いに評価できる。今後も、周囲を巻き込む持ち前の行動力を活かし、グローバル人材として国際的な舞台で活躍してほしい。

ウバイドゥラエフ ダブロンベック アブドゥワホブ オギリ

UBAYDULLAEV Davronbek Abduvakhob ugli

法学研究科 博士後期課程 3年

## 留学生の視点を活かした国際交流活動

私は、修士課程から博士課程までの5年間、主に次の2つの国際交流活動に取り組みました。国際交流会館では、レジデント・アシスタント（RA）として寮生支援や交流活動に従事し、日本人が多いRAの中で、留学生の視点や特徴を共有し、寮内の交流を深める努力を重ねました。また、RA研修の企画・実施に関わり、常に改善に向けて取り組んできました。これと同時に、学外では一宮市国際交流協会の学校訪問活動に積極的に参加し、5年間で3,000人を超える子どもたちと交流しました。2年目以降は、周囲の協力を得ながら様々な工夫を加え取り組みました。2023年度からは協会の新イベント企画にも参加し、名古屋大学の留学生と一宮市の国際交流の基礎づくりに尽力しています。

一見異なるような両者から得た経験、知識、スキルは互いに補完しあっており、今の自身の成長に繋がったと感じています。

今後も大学の国際交流活動に一層貢献し、留学生と地域社会とのつながりを深めたいと考えています。

**講評：**留学生の支援を行う国際交流会館レジデント・アシスタントの活動に、留学生の立場で主体的に関わり、自らの経験や留学生としての視点を活かして、コロナ禍の期間も含め、その活動に大いに貢献したことは高く評価できる。また、同じウズベキスタンからの留学生を率いて行った様々な国際交流活動も評価に値する。今後は、持ち前の観察力や行動力を活かし、グローバルリーダーとして活躍してほしい。

## 名古屋大学陸上競技部長距離パート

### 議論で勝ち取った全国大会

私たち名古屋大学陸上競技部長距離パートは、今年度11年ぶりの全日本大学駅伝出場と18年ぶりの出雲駅伝の出場枠の獲得をすることができました。

私たちがこのような結果を残すことができたのは、ミーティングを重ねていくことで目標を明確化し、部員全員の意見を取り入れるようにしたからです。ただ、闇雲に練習を重ねるよりも一旦何をしたらよいかを考えることでより良い練習を行い、より大きな成長をすることができました。今年度取り組んだことをチームの資産として積み重ね、これからの練習をより実のあるものとしていきたいです。

来年度は、再び全日本大学駅伝予選会での出場枠獲得や、出雲駅伝本戦が控えているため、それに向けてさらにチーム力を向上し、全国の舞台でより良い結果を残し、名古屋大学の課外活動を全国にアピールしていきたいです。

**講評：**全日本大学駅伝に11年ぶりに出場し、東海学生駅伝で18年ぶりに優勝する快挙を成し遂げたことは、文句なく最大級の賛辞に値する。コロナ禍もあり、思い通りの活動ができないことがあっても、全員が目標に向かって一丸となり、練習を積み重ねてきたことが素晴らしい成果につながった。今後とも、個人の力を磨くとともに、チーム力も向上させ、更なる高みを目指して欲しい。

## 名古屋大学国際交流会館レジデント・アシスタント

### 国際学生寮における留学生支援の継続と発展

当団体「レジデント・アシスタント（略称：RA、旧称：チューター）」は、本学の留学生が渡日後に入居する国際学生寮にて留学生が安心して生活できるように支援している学生団体です。複数の学生寮（留学生会館、レジデンス東山、猪高町宿舍、レジデンス山手、レジデンス妙見、レジデンス大幸）にて、1988年以前から2024年現在まで36年以上にわたり継続的に活動しています。

主要な活動内容は、1）留学生の渡日直後の支援、2）日常生活・緊急時の支援、3）入居者同士の交流の支援、4）RAの継続と発展に向けた活動の計4点です。関係者（本学の教員・職員・学生、学生寮の管理人・入居者）とも協力し、2020年以降のコロナ禍も含めて多様な出来事に対応しながら、様々な活動に取り組んできています。

今後も活動を継続して発展させ、RA学生自身も成長するとともに、学内外の関係団体とも連携して、本学の国際化に協力し続けていきます。

**講評**：本学が進める国際化において、留学生の生活環境の整備や日本人学生との交流促進は重要な課題であり、本団体が30年にわたる活動を通じて国際化の推進に貢献してきたことは高く評価できる。また、コロナ禍においても、創意工夫によって留学生の生活を支え続けてきたことは特筆に値する。取組の成果を次の学年に引き継ぐことで、活動の更なる発展を期待したい。

## Nagoya University Model United Nations

### 全世界の学生のプラットフォームを目指して

名古屋大学模擬国連運営チームは、G30プログラムの学生を中心に様々なバックグラウンドをもつ学生約20名で構成されています。2021年に第1回名古屋大学模擬国連(NUMUN)を開催し以来、教授やスポンサーからのご協力を頂き、毎年開催しています。NUMUNは、参加者が一国の大使や議員団の役割を担い、特定の議題について実際の国連における会議と同じように担当国の政策や歴史、外交関係などに照らし合わせて議論を進める場であり、参加対象者は、弁論や批判的思考能力の向上を目指す高校生、大学生、大学院生です。過去には、日本国内の有名大学を中心に海外からもご参加頂きました。

今年4月にNUMUN2024を開催予定であり、初の試みとして日本語で行う委員会を設置します。NUMUNが、日本のみならず世界の学生が集い、国際問題を議論するプラットフォームとなるよう運営チーム一同引き続き尽力していきます。

**講評**：本団体は、実際の国連を模した討論を行う名大模擬国連を三度にわたって開催してきた。この取組は、本学の学生のみならず、他大学の学生、高校生、海外からの参加者など、幅広く賛同を集めており、正課外の活動ではあるが、名古屋大学の国際交流の発展につながる取組として高く評価できる。今後は、模擬国連の企画・運営を通して学んだことを活かし、国際的な舞台で活躍してほしい。

## 令和5年度総長顕彰を終えて 総評

総長顕彰制度は、学問の研鑽や文化・社会活動等を通じて、「名古屋大学学術憲章」の目指す人物像を実践している学生を讃えるとともに、その活動を広く周知することにより、優れた人格と創造性を兼ね備えた人材のさらなる創出の促進を図ることを目的として、平成15年度に創設された。

今年度で21回目を迎える総長顕彰制度へ推薦・応募があった学生達は、いずれも、その意欲や姿勢、各活動への情熱や熱意において素晴らしい者ばかりであった。

惜しくも受賞に至らなかった学生も甲乙付けがたく、今後の活躍を楽しみにしている。

受賞した学生・団体には、名古屋大学が育成を目指す「勇気ある知識人」として更なる研鑽を積み、今後の学生生活、社会生活において、後に続く名古屋大学生の目標となるような人材に成長することを期待したい。

令和5年度総長顕彰委員会委員長 佐久間 淳一

## 令和5年度総長顕彰委員会

佐久間 淳一委員長（副総長・学生支援担当）

周藤 芳幸委員（文学部長），高井 次郎委員（教育学部長），北 栄輔委員（情報学部長）

寺崎 一郎委員（理学部長），中園 幹生委員（農学部長），村上 正子委員（法政国際教育協力研究センター長），原田 正康委員（生協理事長）

本顕彰に係る募集は，各部局への募集要項等送付，ポスター，ホームページを通じて，令和5年12月1日（金）～令和6年1月5日（金）の間に行われ，その結果，「学修への取り組み」部門に9件の学部推薦が，「正課外活動への取り組み」部門に自薦・他薦を合わせて13件の応募があった。

これら合計22件の推薦・応募について，総長顕彰委員会による厳正な審査及び合議を経て，最終的に「学修への取り組み」部門から9名，「正課外活動への取り組み」部門から3名および3組，総勢12名の学生及び3件の学生団体を令和5年度総長顕彰として表彰することを決定した。